危機対応勘定

貸　借　対　照　表

（平成22年３月31日現在）

（単位：百万円）

資産の部		負債及び純資産の部	
科目	金額	科目	金額
（流動資産）	**171**	**（流動負債）**	**497,008**
現金・預金	28	短期借入金	496,300
未収収益	143	未払金	0
未収金	0	未払費用	707
（固定資産）	**1,925,258**	**（固定負債）**	**1,300,206**
取得株式等	1,925,258	預金保険機構債	1,300,000
有形固定資産		機構債発行差額	206
工具・器具・備品	0	退職給与引当金	0
		（負債合計）	**1,797,215**
		（剰余金）	
		利益剰余金	128,214
		積立金	105,832
		当期未処分利益	22,381
		（純資産合計）	**128,214**
資産合計	**1,925,429**	**負債・純資産合計**	**1,925,429**

㈱　各計数は、単位未満切捨て。

損　益　計　算　書

（自平成21年４月１日　至平成22年３月31日）

（単位：百万円）

費用の部		収益の部	
科目	金額	科目	金額
（経常費用）	**9,193**	**（経常収益）**	**31,575**
一般管理費	14	取得株式等事業収入	
事業外費用	9,179	取得株式等配当金	31,566
借入金利息	3,178	事業外収益	9
機構債利息	5,725		
機構債事務費	275		
（当期利益金）	**22,381**		
合計	**31,575**	**合計**	**31,575**

㈱１．当期利益金22,381百万円は、預金保険法施行規則（昭和46年大蔵省令第28号）第３条の規定により、次期の積立金として整理する。

２．各計数は、単位未満切捨て。

○重要な会計方針等

１．有価証券の評価基準及び評価方法

総平均法による原価法によっている。

２．固定資産の減価償却方法

法人税法の基準を採用し、定額法により行っている。なお、減価償却累計額は次のとおりである。

有形固定資産　０百万円

３．引当金の計上基準

退職給与引当金

役職員の退職金の支給に備えるため、期末要支給額を基準として計上している。

４．その他財務諸表作成のための重要な事項

⑴　消費税の会計処理方法

税込方式によっている。

⑵　機構債発行差額の償却方法

機構債発行差額は、預金保険機構債の償還期間にわたって定額法により償却している。

⑶　機構債発行費の処理方法

支出時に全額費用として処理している。

⑷　収益・費用の計上基準

発生主義によっている。

⑸　その他

機構債利払いに係る金利スワップ取引（固定金利受・変動金利払）は特例処理の要件を満たしているため、金利スワップ取引の受払の純額を機構債に係る利息に加減して処理している。これにより機構債の金利負担は、3,975百万円の減少（前年度は、611百万円の増加）となる。

特定住宅金融専門会社債権債務処理勘定

貸　借　対　照　表

（平成22年３月31日現在）

（単位：百万円）

資産の部		負債及び純資産の部	
科目	金額	科目	金額
（流動資産）	**5,039**	**（流動負債）**	**432,734**
現金・預金	43	未払金	432,713
短期貸付金	2,990	前受収益	21
有価証券	2,000	**（固定負債）**	**914,250**
未収収益	5	退職給与引当金	13
未収金	0	日本銀行返還条件付拠出金	100,000
（固定資産）	**1,922,695**	資産見返負担金	137
有形固定資産	34	保証債務	814,100
建物	32	**（特別法上の引当金等）**	
工具・器具・備品	2	金融安定化拠出基金	1,008,458
無形固定資産	1	民間拠出金見返	1,007,000
投資その他の資産	1,922,659	運用収入見返	1,458
金融安定化拠出基金資産	908,458	**（負債合計）**	**2,355,443**
関係会社株式	200,000		